

私 の 工 夫

自分の思いや考えをもち、進んで表現する子どもの育成
 S NIE教育の実践を生かして

前笠岡市立城見小学校
 現笠岡市立笠岡小学校

教諭 浅野 麻衣子



1 はじめに

学力調査や児童アンケートの結果によると、本校には、書くことを苦手とする児童が多い。また生活面でも、自分の考えを言葉で相手に伝えたり、相手の思いや考えを感じ取ったりする力が弱い。

そこで、NIEを生かしながら学力の向上、特に国語科での「書くこと」や言葉で表現する力を付けていくことに全学年で取り組んだ。

2 実践の内容

(1) 環境作り

まず、語彙力を育てることが必要であり、新聞に目を通してたくさん言葉に触れることが、大変



校内の新聞コーナー

有効であると考えた。

そこで、校内に新聞コーナーを2箇所設置した。各社の新聞記事を読み比べできるように置き方を工夫したり、新聞クイズコーナーを作ったりして児童の関心が高ま

るようにした。さらに、委員会活動で児童が作った新聞や新聞への児童の投稿で掲載された記事を掲示した。また、各教室内に、NIEコーナーを設置し、友達の見えや作品をみんなで共有できるようにした。

(2) 実態把握に基づく計画作成

朝学習でのNIEタイムや朝の会のスピーチなどで新聞に親しみながら学力向上を目指した。授業でも効果的に新聞を取り入れ、子

城見小 NIEカリキュラム 第1・2学年・ひまわり	
4月	子どもしんぶん 新聞がわかる (新聞ジャンケン・新聞ボール・新聞を長く切らなむ)
5月	子どもしんぶん ひらがな・カタカナ検定
6月	子どもしんぶん テーマを決めて写真を選ぶ (テーマに沿った写真を取りぬく)
7月	子どもしんぶん テーマを決めて写真を選ぶ (分かったことや感想を書く)
9月	子どもしんぶん テーマを決めて写真を選ぶ (分かったことや感想を書く)
10月	子どもしんぶん 新聞に投稿する作品を作る
11月	子どもしんぶん 四コママンガを使う
12月	子どもしんぶん 新聞で遊ぶ
1月	子どもしんぶん 新聞に切り抜いた写真を貼る (分かったことや感想を書く)

城見小 国語科「書くこと」系統表とNIEカリキュラム 第1学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
書くこと	<p>ア 書いたことや感想を書いたことなどから書くことを題材に、必要な事項を盛り込みたりして伝えること。</p> <p>イ 自分や身近な人が関心になるように、新聞の題字に添って読者の関心を考えること。</p> <p>ウ 題と題中文字と文との関係方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。</p> <p>エ 文章の読み手や観客を想定し、内容のまとまりや、題と題中文字と文との関係方を確かめながら、文章に対する感想や意見を書き、自分の文章の内容や構成のよさを長所を述べること。</p> <p>オ 新聞記事や新聞の構成を学び、書いたことや感想を伝えたり、書いたことや感想を伝えること。</p> <p>カ 新聞の構成や構成要素、書いたことや感想を伝えること。</p>										
言語活動	<p>自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する</p> <p>題と題中文字と文との関係方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように</p>										
書くこと	<p>自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する</p> <p>題と題中文字と文との関係方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように</p>										
表の形成、読法	<p>自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する</p> <p>題と題中文字と文との関係方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように</p>										

NIEカリキュラムと国語科(書くこと)系統表(低学年)

どもたちの思考力、判断力、表現力を高めようと試みた。そこで、各学年で、NIEタイムの計画や国語科の「書くこと」の系統表を作成し国語科の授業の中でどのようにNIEの取組を生かせるか検討し、系統立てて学力を付けていくことができるようにした。

朝学習では、計画を元に、週に一度、NIEタイムを行った。朝の会のスピーチでは、新聞記事を自分の考えとともに紹介し、情報を取捨選択したり、それに対する自分の考えを表現する力を身に付けた。さらに、月に一度全校児童が同じ記事で、自分の意見や感想を字数制限内で書く活動を行った。また、お家の人にも新聞記事に対する意見をもらい、それを元に、友達と話し合い活動もした。このような実践を「NIE通信」に載せ、保護者や地域の方に紹介したり、「新聞コンクール」に応募したりした。

(3) 授業作りにおける工夫

① 指導案作成

書く力のゴールを明確にする

ために、指導案には、目指す文章の具体的なポイントを入れ、教科書の例文とは別に、指導者がモデル文を作成し、載せるようにした。それにより、教師が児童のつまりきを予測して事前にその手立てを考えることにつながった。また、授業の導入で、モデル文を児童に示す事で、児童も「自分もできそうだな・やってみよう」という意欲につながることができた。

「新聞をつくらう 光村図書4年」では、相手に伝えることを想定して、限られた紙面で新聞を作る活動を通して、読み手を意識した言葉の使い方や構成の仕方などを身に付ける活動を行った。

新聞作りでは、インタビュアーアンケート、取材はグループ単位で行い、新聞は一人一枚作ることにした。また、「書く↓アドバイスをもらおう↓書く」といった流れのスマールステップを工夫し、全児童が無理なく仕上げることができるようにした。

② 興味喚起・意欲の保持

導入では、自分が生まれた日の新聞の一面を保護者や友達と一緒に

に読んで交流した。動機付けになり新聞作りに意欲をもつことができた。



保護者と協力した新聞作り

全校児童が、「『さん太号』出前授業」を受けたり、「さん太しんぶん館」に行つて学んだりする活動を入れた。

③ 指導と評価の一体化

「何を・いつ・どのように学ぶ・どこを評価するか」を明確にするために、学習計画とその時間に付けた力を教室掲示して児童と共通理解した。児童には、単元全体が見られるように一枚のシートに、「学習活動・めあて・まとめ・振

り返り」を記入できるようにした。

④ 学習形態

一人で考える時間の確保

ペア学習

話し合いの観点を明確にし、児童が、何か「得られた」「改善点が見付かった」といった実りのあるものにした。

グループ学習

話し合いの観点で書き込むワークシートを用意したり、それぞれの役割「司会・発表者・記録者」を決め、明確にした。

ワークシートの工夫

伝えたいことを中心に明らかにして書くことと、限られた文字数

学習計画	学習のめあて	まとめ	ふりかえり
1. 新聞の役割を知る	新聞が社会に与える影響を学ぶ	新聞の役割について話し合う	新聞の役割について話し合う
2. 新聞の作り方を学ぶ	新聞の作り方を学ぶ	新聞の作り方を学ぶ	新聞の作り方を学ぶ
3. 新聞の読み方を学ぶ	新聞の読み方を学ぶ	新聞の読み方を学ぶ	新聞の読み方を学ぶ
4. 新聞の活用方法を学ぶ	新聞の活用方法を学ぶ	新聞の活用方法を学ぶ	新聞の活用方法を学ぶ
5. 新聞の楽しみ方を学ぶ	新聞の楽しみ方を学ぶ	新聞の楽しみ方を学ぶ	新聞の楽しみ方を学ぶ
6. 新聞の制作体験	新聞の制作体験	新聞の制作体験	新聞の制作体験
7. 新聞の発表体験	新聞の発表体験	新聞の発表体験	新聞の発表体験
8. 新聞の感想発表	新聞の感想発表	新聞の感想発表	新聞の感想発表
9. 新聞の活用発表	新聞の活用発表	新聞の活用発表	新聞の活用発表
10. 新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表
11. 新聞の制作発表	新聞の制作発表	新聞の制作発表	新聞の制作発表
12. 新聞の発表発表	新聞の発表発表	新聞の発表発表	新聞の発表発表
13. 新聞の感想発表	新聞の感想発表	新聞の感想発表	新聞の感想発表
14. 新聞の活用発表	新聞の活用発表	新聞の活用発表	新聞の活用発表
15. 新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表	新聞の楽しみ発表
16. 新聞の制作発表	新聞の制作発表	新聞の制作発表	新聞の制作発表

ふりかえりワークシート

で書くために、自分が伝えたい重要度を書き込むことができるようにしたり、文字数が一目で分かるものを用意したりした。

(4) まとめ

取組の結果、児童は、書くことへの苦手意識が減った。

実践では、朝会での教師の話や集会や運動会にまで、新聞を取り入れた。また全教職員で取り組むために、研究便りで、研修や研究の方向性をその都度確認し、進行状況の見える化も行った。

この実践を通して学んだことは、多くの方とかわり合いながら楽しくそして互いに高め合いながら研究していくことのよさである。全教職員で一丸となつて取り組み、さらに、保護者や地域の方に協力していただく中で、子ども一人一人の力が育つていくことを実感した。今後、情報化社会が進む中で、児童が、正しい情報を読み取り相手にわかりやすく発信できる力を付けていきたい。ワンチームで楽しみながら。